

報告 2：吉富拓人（東京外語専門学校）

「中国の 2 本立ての国際通貨戦略」

中国の国際通貨戦略は、「人民元の国際化」と「SDR の利用拡大」の 2 本立てである。中国は、人民元の国際化を慎重に進めていく一方で、ポストクライシスに備えて SDR を中心とした国際通貨システムの構築を進めている。

世界金融危機後、主に決済通貨あるいは運用通貨として人民元の国際化は進展したが、2015 年半ば以降、人民元国際化は停滞もしくは後退している。元高局面では、人民元を保有する動機が高まり国際化が進展したが、元安局面に変わり、人民元を保有する魅力は低下した。人民元の上昇神話が崩れたうえ、当局は資本取引や為替制度の自由化に対して慎重であり、人民元が米ドルやユーロに匹敵するような地位を確保することは難しい状況である。

2009 年、周小川・人民銀行総裁は、論文で SDR を中心とした国際通貨システムの必要性を主張した。現行のドル基軸通貨システムに対する不満は、他の新興国や一部の先進国と共有しており、SDR の役割を高める案については、賛同者も少なくない。中国は、IMF や世銀などとの連携を強め、SDR 建て債券の発行、人民元の SDR 構成通貨入りなど、SDR 利用拡大への取り組みを進めてきた。ほかにも、スワップ協定の締結、人民元決済銀行の拡大など、国際金融協力を推進している。

中国の国際通貨戦略に関して、多くの論者が「人民元の国際化」と「SDR の利用拡大」に言及するが、2 つの戦略の関係性は必ずしも明確ではない。人民元の国際化を進めていくことで複数基軸通貨が成立するのであるだろうか。また、SDR 基軸通貨制度の構築を阻む要因はなんだろうか。そもそも 2 つの戦略は整合性がとれているのだろうか。

本報告では、中国の「人民元国際化」と「SDR 利用拡大」を中心に、中国の国際通貨戦略について考察する。2 つの戦略の関係性を整理し、実現可能性を検討したい。